

# 令和7年度 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 令和8年1月21日(水) 午後3時00分～午後4時20分

2 場 所 湖西市役所3階 委員会室

3 出席者

## (1) 構成員

市 長 田内 浩之

教育委員会

教育長 松山 淳

委 員 西川 倫予 山下 恵子 穴水 正哲 杉山 健

## (2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長(鈴木啓二) 企 画 部 長(馬淵 豪)

企 画 政 策 課 長(杉本周平) 教 育 総 務 課 長(藤井公和)

学 校 教 育 課 長(黒柳孝江) 学 校 教 育 課 課 長 代 理(大石 誠)

教 育 総 務 課 課 長 代 理(仲本真武) 学 校 教 育 課 主 任 主 査(杉浦大千)

学 校 教 育 課 主 任 主 査(戸田匡哉)

## (3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長(鈴木啓二) ※再掲

教 育 総 務 課 長(藤井公和) ※再掲

教 育 総 務 課 課 長 代 理(仲本真武) ※再掲

4 協議又は調整に係る事項

第3次湖西市教育振興基本計画(案)について

部活動地域展開について

学校再編について

5 報告事項

業務量管理・健康確保措置実施計画について

6 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

## 午後 3 時00分開会

**(企画政策課長)** ただいまから、令和 7 年度湖西市総合教育会議を開会する。初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(田内市長 挨拶)

**(企画政策課長)** それでは、協議事項(1)第 3 次湖西市教育振興基本計画(案)について、教育長より説明をいただいた後、その後教育委員から一人ずつ発言をいただき、発言された内容ごとに市長から意見を述べていただくという流れで進める。発言された委員以外でも意見があったら、遠慮なく意見をいただきたい。それでは教育長からの説明をいただきたい。

**(教育長)** 教育振興基本計画について説明をさせていただく。この計画は教育行政を総合的かつ計画的に推進するための計画であり、教育の目指すべき姿と施策の方向性を示す計画となっている。策定にあたり、国および県の教育振興基本計画並びに湖西市総合計画との整合性をはかった。計画期間は令和 8 年度から 4 年間である。主に教育大綱の部分である教育理念を中心に説明させていただく。まず基本理念を未来の湖西を創るひとつづくりとした。現在パブコメを行っている湖西市総合計画の第 2 期実践計画テーマに掲げ、市として進めようとしている、次世代に誇れるまちづくりに対して、その次世代である子どもたちには、その未来を切り開いていけるようなひとつづくりを教育の場で実現することで、まちづくりにも貢献していきたいという思いを込めた基本理念となる。現行の基本理念と同じであるが、実践計画テーマへのアンサーのような関係になると考えている。

未来の湖西を創るひとつづくりの鍵となるのは、優しくたくましく志のある人を育てることだと考える。優しさは、他者と協働し心豊かに暮らすための基盤である。それには優しい気持ちや思いやりを心の中に持つだけではなく、それを行動に移せることだと考える。そこで、優しい人とは、いろいろな違いを当たり前のことと捉える想像力を持ち、みんなが安心して自分らしくいられる場所をつくりだせる人であるとした。たくましさは、自らの人生を切り開き変化に立ち向かう力である。現在小中学校では不登校が増加している。逆境にあった時に、不撓不屈なたくましさを求めるよりも、今の子どもたちには、失敗しても大丈夫だ、困難にあっても折れることなく、また立ち上がりチャレンジし続けられる、そんなしなやかさが必要だと考える。そこで、たくましい人とは、変化や失敗を恐れないチャレンジ精神を持ち、困難に直面しても諦めずに何度も挑戦するしなやかさを持った人であるとした。こころざしは未来を切り開く原動力である。こころざしのある人とは、夢や目標を持ち、その実現を目指し優しさを基盤に他者と協働して、しなやかなたくましさでチャレンジし続ける人である

とした。

基本理念を実現するため、計画全体を貫く二つの柱を新たに設定した。一つ目は、ふるさとに学び、ふるさとを知り、ふるさとに応えるである。本市の特色として学校や教育に対する地域からの温かな眼差しを挙げることができる。また、地域の自然、人、文化、産業も湖西市の強みである。地域の人や自然を生かした実体験を通じた学びや、世代を越えた支え合い、地域との連携などを力点に事業を展開していく。二つ目は、誰もが主役、一人一人のウェルビーイングの実現である。誰もが自分の人生の主役として尊重される必要がある。それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられることが、未来の湖西を作るための原動力になる。必要な人には丁寧な支援を行い、誰もが自己有用感を持って自立し、自らの夢に向かってしなやかに自ら成長できるような取り組みを推進する。

三つの分野それぞれに基本目標を定め、具体的な事業を整理した、ここまでの教育大綱となる教育理念である。

続いて基本計画の本文の説明をさせていただく。基本理念があり、二つの柱があり、三つの基本目標に対して、10の方針のもと、21の施策を展開していく。具体的な施策の展開は、基本目標ごとにKGI、施策、事業という構成になっている。特に力を入れる取り組みには、【重点】と記入してあるので確認いただきたい。

**(企画政策課長)** それでは西川委員から発言をお願いします。

**(西川委員)** 教育振興基本計画の5ページに基本理念の実現に向けた二つの柱として、ふるさとに学び、ふるさとを知り、ふるさとに応えるという記載がある。地域の人や自然を生かした実体験を通じた学びという考えはとても良いと思う。地域との連携を図った事業展開を期待している。教育振興基本計画の9ページに関して、給食センターの整備に伴い、配送・管理などの見直し、効率化に繋がると思う。地産地消率を上げていただきたい。地域の生産者が作った地元の食材を使用した安心安全な学校給食に力を入れていただきたい。収穫→調理→皮や残った食材を使って堆肥作りなどの一連の流れを体験活動として参加することで、施策1、事業4体験活動として、体験を通じた学習としていただきたい。

**(市長)** 地産地消に関してはぜひ進めたいと思っている。湖西市内には農産物も海産物も素晴らしいものがあるので、それを子どもたちの口に入るということを目指していきたい。体験については、今時点も各小学校において農業の体験型の実習というものを行っている。今の体験型の教育と、新しくできる給食センターがどうやって絡んでいくかがとても大事だと思っている。皆様と議論しながらリンクさせて、良い教育として提供したい。

**(西川委員)** 2026年4月より、児童1人月額5,200円の給食費を国費で支援する案が出ていると思う。これにより湖西市でも小学生の給食費は実質無償化となり、中学生小学生ともに無償化となるのか教えていただきたい。

**(市長)** 湖西市の給食費は国費での支援を超える額であることから、学校給食法に基づき引き続き保護者の皆様から給食費を徴収できる制度となっている。国費での支援を超える額を誰が負担するかは、各自治体が判断することとなっているが、湖西市では物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、令和8年度は市が負担しようと考えている。そのため令和8年度は小中学校とも無償化する予定だが、令和9年度以降についてはまだ未定である。

**(企画政策課長)** 続いて山下委員に発言をお願いします。

**(山下委員)** 教育振興基本計画の9ページに安全・安心な学校給食を提供します、ということが重点に挙げられているが、オーガニック給食というのを導入してはいかがか。子どもの健康、食育、環境保全、地域農業活性化を目的に実施される自治体が増えてきていると聞く。

**(市長)** 他の自治体でもオーガニック給食の導入事例は拝見している。県外産の有機米を使用したり、米や野菜のオーガニック食品の取り組みを認識している。子どもたちに安心・安全な食材で給食を提供することは大事なことだが、オーガニックという言葉が先行しすぎると、現時点の給食が安心・安全ではないというような誤解をまねかれないよう、言葉の使い方には慎重にしなければいけない。ただ安心・安全な給食を提供することにはしっかりと取り組むとともに、オーガニック給食についても研究していきたい。

**(企画政策課長)** 続いて穴水委員に発言をお願いします。

**(穴水委員)** 教育振興基本計画の6ページ、教育大綱部分の基本目標1に主体的に学び続ける力とあるが、これを達成するためには、教育DXが必要であると考えている。私も教育委員として9月に教育アプリ選定会に参加させていただき、プレゼンを聞いたが、各社それぞれ特徴が違っていたが、根本的には同じアプリであると感じられた。使い勝手の面などで差別化をはかっているように感じられた。市長は教育DXの推進を公約として掲げられているが、市長の夢見る授業風景、こういう授業をやってもらいたいというものがあったらぜひこの場で聞かせてほしい。

**(市長)** 今、DXという言葉を見ると生成AIが思いつく。進化はとてつもないスピードで進んでおり、先日最新型の生成AIに英語でしゃべって見たら、英語圏の方が目の前にいるかのような言語レベルで驚いた。夢見る授業風景というと、生成AIが一教員ぐらいのレベルになったと仮定して、1人の生徒に1人の先生がつくというような、普段の学力の向上という意味では、生成AIの先生がここで教えてくれる、というところまで行きつくのではないかと想像する。質問からはずれるが、そういったことが大事な一方、教育理念にある通りやさしくて、たくましくて、志を持つということも、しっかり育てるということも大事である。生成AIと学習すると学力は上がるが、人として大事なことがそれで育つかは疑問である。そこは先生や友達としっかりコミュニケーションをとることによって育まれると思う。何を育むかと言えば、気力と体力と非認知能力、いわゆるコミュニケーション能力とかやり抜く力とか感情

のコントロールなどは、リアルな世界でグループで何かを成し遂げたり、目の前に困っている子がいたらみんなで助ける等、そういったところで育んでいくことが大事だと思う。教育DXが進めば進むほどその真反対の事柄がとても大事になってくると認識している。

**(企画政策課長)** 続いて杉山委員に発言をお願いします。

**(杉山委員)** 8ページにある学校の授業がわかると答える児童・生徒の割合というKGIを達成するためには、年間を通して全教職員を対象に、指導力の向上と合わせてICT活用の向上を行うことで、質の高い教育に繋がると思う。6ページにある教育大綱の中の基本目標、主体的に学び続ける力、未来を切り拓く力を育む幼児・学校教育を推進しますとあるように、子どもたちが主体的に学び続ける力を育むためには、全教職員の指導力向上に力をいれて取り組んでほしい。

**(市長)** 教職員を含め大人も学び続けなければいけないと思っており、教職員においては個人的に研鑽しているが、ICT活用の向上という観点ではさらに研修等々やっていく必要があると思う。現在でも詳しい先生が皆に教える、というような取り組みを各学校でしているのを目にしている。そういったことも進めながら、最先端のアプリ、学習ツールなどを情報として流し込んでいくことも大事だと思う。ただ教職員の指導力向上というのは、子どもたちの教育に切っても切り離せないものなので、そのためには全教員がいろいろな研修に参加していくことが大事だと考える。

**(企画政策課長)** 続いて意見をお願いしたい。

**(杉山委員)** 製造業の経営者として、モノづくりのまちとして将来が不安な部分がある。湖西市ではさまざまな企業があるが、各企業との連携を強化して、子どもたちの企業見学の受け入れ先を増やすことで、子どもたちにモノづくりの楽しさなどを伝える機会が必要だと思う。私も岡崎小学校の受入をやっているが、年々このようなことを感じている。

**(市長)** 子どもたちにモノづくりの楽しさを伝えることは大切だと思う。先日白須賀の子供会の行事に参加して、子どもたちがミニ四駆を一生懸命楽しそうに作っており、モノづくりの楽しさというものを目にしたところであり、必要性は感じている。今は湖西少年少女発明クラブ、中村哲也会長を筆頭にやっていたいたり、青少年の科学体験として各企業に参加いただきイベント等もやっている。先ほど杉山委員が受け入れてくれた話も聞いたが、実際モノづくりの現場を子どもたちが見ることは、たとえ将来製造業に就かなかったとしても、大人になったときに経験として生きてくることから、企業見学の受け入れ先を増やすことはしっかり検討していきたい。

**(企画政策課長)** 以上で協議事項第3次湖西市教育振興基本計画(案)について終わる。続いて協議事項(2)部活動地域展開について、先ほど同様教育長から説明いただき、その後教育委員に発言いただく流れで進める。それでは教育長説明をお願いします。

**(教育長)** 湖西市における中学校部活動地域展開について説明する。まず今年度の運

動部の状況を表に示している。少子化の影響により、年々部活動に取り組む人数や、部活動の設置数が減少しており、単独チームが組めない部活動が増えている。練習の成果を発揮できず悔しい思いをする生徒が増えている。

現在、部活動地域展開等推進協議会を行っており、令和5年9月から立ち上げ、現在まで7回の協議を重ね、8つの方向性のもと部活動改革を進めてきた。実態把握のためのアンケート調査や、これまでの会議録等の詳細については、二次元コードから確認していただきたい。

11月20日に開催された第7回の会議では、部活動の終了時期と地域クラブ活動開始のスケジュールと種目別の地域展開の見通しについて話し合い、令和10年の中体連夏季大会をもって市内中学校の部活動を終了し、全ての種目で休日平日を含めた地域クラブの活動を開始する、という案に賛成いただいた。準備ができた種目は先行して、令和10年以前に開始していく。地域クラブになると市内のどの中学校からも参加が可能になる。部活動が地域に移行されるにあたり、影響が生じる学年があることから、関係する児童生徒及び保護者の皆様への周知、広報活動は大変重要と考えている。

次は部活動と地域クラブとの違いをスポーツ庁、文化庁の資料から転載したものである。今まで学校が行ってきた活動を地域に移行することは、簡単なことではなく、指導者の確保や練習場所、保護者の送迎や月謝の負担など課題は多くある。部活動と地域クラブとでは、活動時間が異なる点も子どもたちにとって大きな違いと言える。午後5時からの活動と、午後7時からの活動の2パターンを想定している。指導者は働いている方も多く、退社後の指導を想定すると現在の部活動より遅い時間帯での活動になる。また学校の垣根を超えたチーム湖西での活動となるため、活動場所までの生徒の移動が必要となる。

現在種目別の検討会を進めている。指導に興味関心のある地域の方々と話し合うなかで、種目ごとの課題を洗い出し、その解決策について協議を重ねている。これには指導を希望する教員も含まれている。まず既存の部活動に関わる種目別検討会を開催し、延べ70名の方に参加いただいている。種目ごとに課題が異なるため、今後も継続して開催する予定である種目ごとの地域クラブ化の見通しで、種目によっては令和10年夏より前に地域移行する可能性もあるため、早く影響が出てくる児童生徒とその保護者に説明をし、理解と協力を得る必要がある。

全体の大きな流れとして、令和8年4月から、まず学校部活動で取り組んできた種目について順次地域クラブを創設し、令和10年8月ごろの完了を目指す。現在学校にない種目については、令和10年8月以降の創設を考えている。地域展開のたくさんの課題を解決するために、今後も関係団体や地域の指導者との話し合いを重ねることで、少子化が進んでも、将来にわたって子どもたちがスポーツ、文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していきたいと考える。

**(企画政策課長)** それでは西川委員から発言をお願いします。

**(西川委員)** 今後地域展開を進めていく中で、地域の皆さま方のご協力を賜りながら、

部活動への関りを今後もしていきたいと思われる教員の方々も、積極的に指導にあたっていただきたい。ただ、活動場所が学校外となると、教員の負担軽減であったり、働き方改革とのバランスをとっていくことはとても大切な課題であると思う。

**(市長)** 働き方改革のバランスに関しては、例えば、今バスケットを熱心に教えている先生は地域展開後もそのままの熱意で指導すると思うが、普段の仕事もあり、先生方の負担を減らすという意味でも、教員以外の指導員の確保が肝になると思う。運動に焦点を当てていうのであれば、湖西市でも元々高校や大学などで運動部として活躍しており、きっかけがあれば子供たちに教えてもいいかと思っている方もいると思う。そういう方をどれだけ見つけ出し、一緒に子どもたちの指導にあたっていただくことがとても大事かと考える。

**(西川委員)** もう1点、運動部のほうが先行していきやすい現状であると感じるが、ぜひとも文化部の活動のほうにも早い段階で、地域展開を進めていただきたい。その際には湖西市には発明クラブ、文化協会があるので、そちらに協力していただきたいと思う。日本文化に触れる活動も一緒に進めていただきたい。

**(市長)** 文化部に関しては、既存の文化部の部活動の受け皿を、地域で創設することを最優先にすべきと考える。その上で日本文化を象徴する活動を子ども達が実施したいと思うのであれば、子どもたちのニーズを汲み取って地域展開していきたい。

**(企画政策課長)** 続いて山下委員に発言をお願いします。

**(山下委員)** 地域展開の課題として、月謝が引っかけられると思われるが、その中で受益者の負担軽減に繋げるために、地域クラブの活動施設の利用料の減免をしてはどうか。

**(市長)** 利用料の減免に関しては、当然検討すべきであり、教育委員会で協議している。今後は社会体育として利用している団体との利用の兼ね合いなども調整しながら、検討を進めていきたい。

**(山下委員)** もう1点、地域クラブとなると保護者の負担、特に送迎の負担が大きいのではないかと。負担軽減としてコーちゃんタクシーの利用補助をしてはどうか。

**(市長)** 送迎については保護者から一番意見をいただくことである。送迎についてはコーちゃんタクシー、コーちゃんバスの利用や補助等、関係各課と連携、協力しながら研究している。

**(企画政策課長)** 続いて穴水委員に発言をお願いします。

**(穴水委員)** 移動に関して、中学生は自転車である程度の距離は移動できると思うが、その分事故の心配が増える。湖西市内を自転車で移動しようとする、経路は限られる。部活動を地域移行して、歩道を走る自転車が増えるかどうかと心配される。市の交通安全地域政策としてどう位置付けているか。

**(市長)** 自転車の活用については進めていきたいが、中学生の夜の移動については防犯上からも慎重に検討しなければいけない。日中に関しては、安全を考慮したうえで自転車移動は検討すべきものだと考える。

**(企画政策課長)** 続いて杉山委員に発言をお願いします。

(杉山委員) 移動手段にコーちゃんバスを活用してはどうか。共働き世帯にとって、4時から6時くらいの時間は非常に難しいと思う。各学校を回って活動場所にする等、保護者の負担軽減に繋げてほしい。

(市長) タクシー、バス等しっかり検討していきたい。自動運転技術も進んでおり、そういったところも見据えながら、関係各課と連携、協力しながら研究していく。

(杉山委員) もう1点、地域クラブに移行する際には、ぜひ子どもたちの意見を尊重してほしい。生涯スポーツとして楽しみたい、もっと上を目指したいなどいろいろな子どもがいると思うので、大人目線ではなく、子どもたちが望む形で移行してほしい。

(市長) 子どもたちがどういう形で、スポーツ、文化活動を楽しみたいのかというのは、とても大事かと思う。正解を出すのは難しいかもしれないが、子どもたちのニーズをできるだけ満たした地域クラブを目指していきたい。

(企画政策課長) 以上で協議事項部活動地域展開について終わる。続いて協議事項(3)学校再編について、先ほど同様教育長から説明いただき、その後教育委員に発言いただく流れで進める。それでは教育長説明をお願いします。

(教育長) 学校再編について説明する。まず北部地区、その後白須賀地区について説明する。北部地区の小中学校統合について、まず校舎等の改修内容について、南校舎が子どもたちの普通教室がある場所でその改修である。北校舎は地域住民との交流を目的とした集会室とする予定になっており、その改修である。岡崎中学校は不足分の教室の新設を予定している。概算の工事費は二つの学校合わせて約14億5,000万円である。開校時期は中学校は令和10年度に統合、小学校は令和11年度に統合である。令和8年度は岡崎中学校の増築を進め、令和10年度に湖西中学校の子どもたちを迎え入れる形で統合していく。現在の湖西中学校は令和9年度に主に北校舎の工事を行い、3月に子どもたちが卒業した後、子どもたちがいない状態で、令和10年度に南校舎、普通教室等の工事を集中的に行い、令和11年4月に統合の予定である。

白須賀地区についてはアンケート結果を報告する。アンケートの対象は1,121世帯、有効数として582名、回答率は約51.9%であった。A案小中学校共に存続、B案小学校は存続、中学校は近隣中学校に統合、A・B案以外の案の三つの選択肢を設け、回答していただいた。全体ではA案は61.0%、B案は30.6%であった。A案B案以外の案として、小学校・中学校共に統合が16件、小中一体型、小中共に選択制などの意見があった。世帯の種類別割合ということで、子どもがいない世帯、高校生の子どもがいる世帯、中学生の子どもがいる世帯等分けてグラフにしており、未就学児43人のみA案B案が逆転しており、それ以外はA案が多いという結果である。年代別割合を見ると、30代のみがA案とB案が拮抗している。A案の選択理由として、通学が81.4%、以下地域との繋がり、小中で一貫した教育ができる、きめ細やかな教育となった。B案の選択理由は、同学年で多くの人と関わることができるが86.5%、以下活動の幅が広がる、クラス替えを行うことができる、などが選択された。今後の教育

環境に求めるものとして、きめ細やかな指導体制を期待、通学時の安全対策を期待などとなった。以下自由記述を集約した参考資料である。小中学生向けのアンケートでも、小中共に存続が75%という結果であった。小学校高学年のA案の選択理由としては、白須賀に住んでいる人と一緒に活動することができる、が一番多くなった。B案の選択理由は、新しい友達ができる、友達がたくさんいるを選んでいる。また、中学生からも様々な意見をいただいた。

**(企画政策課長)** それでは西川委員から発言をお願いします。

**(西川委員)** 北部地区に対して、当初の計画よりも1年遅らせるという見直し案になっているが、地域の方々の、子育て世帯や今後通学をしていく子どもたちと保護者の思いや意見を大切にしてほしい、という声に沿う形で進めてほしい。通学に関しての通学路や通学手段、プールがどうなるのか、制服、学習面の環境など保護者が心配になることが多々あると思う。保護者の方々や先生方の意見を聞き、丁寧かつあまり時間をかけずに、計画を早い段階で示してほしい。新小学校の学校名の投票も小学校で盛り上がっていたと聞いた。子どもたちが新しい学校を楽しみにしているので、スケジュール通りに進めてほしい。

**(市長)** 通学のところは、しっかりとやっていかないといけない部分である。部活動の地域展開と重なる部分でもあるが、子どもたちに安全に学校に通学してもらうということは、早急に考えをまとめていきたい。学習環境の変化については、事前の学校間の児童生徒の交流というのも頻繁に行っているのので、今後も不安を極力解消できるように進めていきたい。

**(西川委員)** 次に白須賀地区に対して、アンケート結果から、存続の案に賛成が多い一方、世帯の種類別割合をみると今後小学校に通学するであろうという現在未就学児の世帯では、再編案に賛成が多いことから、今後どのようにしていくか、慎重に検討を重ねていく必要があるのので、早急に決断するのは難しいのではないかと考える。とはいえ児童生徒数は、近いうちに学習環境や学校生活において、適正といわれている人数を下回る見通しになっていることから、小規模特認校とするのはいかがか。地域と連携した特色ある教育活動を進め、通学区域の制約を受けずに学校選択ができるとなれば、白須賀地区以外からの通学もできるようになる。ただ、特色ある教育活動や学校運営がそこにはとても重要になるので、しっかり検討することが必要になるが、いかがか。

**(市長)** 学校の統合に関しては、慎重に考えなければいけないが、答えを出さないわけにはいかない。統合か、存続か、判断を先に送るのか、地域の皆様とも丁寧に意見交換していきたい。小規模特認校制度については、市だけで判断するのではなく、学校・地域の意見を伺いながら、導入について検討していく。特色ある教育活動については、白須賀地区に限らず湖西市内全小中学校で必要だと思う。学習指導要領以外でどれだけ特色が出せるか、課題になっていくと思うことから、現場の先生方から知恵をいただきたいと考えている。

**(企画政策課長)** 続いて山下委員に発言をお願いする。

**(山下委員)** 白須賀地区の学校再編について、アンケートの自由記述が多く、住民の方々のいろいろな思いを知ることができた。アンケート結果について市長の率直な感想を伺いたい。

**(市長)** 自由記述についてはすべて目を通した。いろいろな考え方があるとはいえ、住民の皆様は、地域の事や子どもたちのことを自分の事のように、しっかりと考えていただいているので地元愛が強い、というのが率直な感想である。

**(企画政策課長)** 続いて穴水委員に発言をお願いする。

**(穴水委員)** 先頃の補正予算審議において、湖西中学校における仮設校舎のリース費用が削除された。私は1クラスが10人未満の状況と、20人前後の状況では大きな違いがあると思う。少人数学級にメリットがあるケースもあると思うが、10人未満となるとあまりに少人数すぎると考える。今回教育委員会は2年間に及ぶ学校再編検討委員会での議論を丁寧にまとめ、それらを反映した形で、10人未満が1クラスとなる学年の児童たちが、1日でも早く20人程度のクラスとなるように動いてきた。議会は全体の費用や、中学を卒業していく子たちの学習環境を考え、リース費用を削除した。どちらを選択してもそれぞれに正しさがあり、尊重されるべき意見だと思う。人口がこのまま減少していけば、今後も同様に苦渋の選択を強いられるケースが度々起こることが考えられる。

**(市長)** 1クラス10人未満の教育と20人程度の教育のメリット・デメリットは深い問題である。白須賀の子どもたちにとってどういう環境が良いのかは、考えているところである。北部の小学校の統合に関しては、準備期間が1年多くなったということで、統合後の学校生活がより充実したものになるよう、丁寧に準備している。また、地区の学校の人数は市長部局で実施する土地政策と大きく関わってくる。北部地区も白須賀地区もまだまだポテンシャルのある地域かと考えるので、住民と子どもたちの数を増やす政策をしっかりと進めていく。

**(企画政策課長)** 続いて杉山委員に発言をお願いする。

**(杉山委員)** 白須賀地区のアンケート結果について、存続のほうが数字を見ると過半数を超えていると思うが、細かく見ていくと、今すぐどちらかにと簡単に結論を出すことは難しいと感じた。これについてどう考えるか。

**(市長)** アンケートを参考に、慎重にいろいろな意見をいただきながら、意見交換をして検討していく。

**(杉山委員)** 北部地区については、地域の子どもたち、保護者も期待している声を聞いている。今示されているスケジュールで進めていっていただきたい。

**(市長)** そこは示したスケジュールを着実に進めていきたいと考える。

**(企画政策課長)** 以上で協議事項学校再編について終わる。続いて報告事項、業務量管理・健康確保措置実施計画について、事務局より説明をお願いする。

**(学校教育課課長代理)** この1月に策定した湖西市学校における業務改革プランについて報告する。本プランの策定の目的について、学校現場では教職員が担う業務が多岐にわたり、長時間勤務が常態化するなど、働き方に関する課題が顕在化している。また、少子化の進行や社会の急速な変化に伴い、教育に求められる役割は一層高度化、多様化している。こうした課題を踏まえ、学校における業務を体系的に整理し、持続可能な教育環境の構築を目的として、本プランを策定した。本プランの策定は、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法第8条に基づくものであり、また、このプランは令和8年度から4年間、11年度までのプランとなっている。本市の教職員の勤務状況は、令和6年度の時間外在校等勤務時間の状況は、月45時間以上の教職員が小学校で23%、中学校で45.5%となっている。課題としては、各学校において、現在も様々な業務改善に取り組む一方で、業務改善で生み出された時間を、これまでにやりたくてもできなかった業務に充てているため、業務量全体の削減については十分ではない、といった点がある。本プランの目指す姿としては、自分の仕事に働きがいを感じている教職員の割合100%、授業の時間が楽しいと感じる教職員の割合100%、時間外在校等時間が月45時間以下の教職員の割合が100%、同じく月80時間を超える教職員の割合0%、などを目標値として設定した。次にKPI、活動指標としては、教育支援センター指導員の配置人数の増員、ICTの活用、コミュニティスクールの機能の強化、部活動地域展開に着手した種目10種類、などを挙げました。業務改革の取り組みについては、学校教師が担う業務に係る3分類に基づく役割分担や適正化の推進を視点を、1 人的資源の配置・活用、2 業務量の削減、3 業務の効率化、4 地域・家庭・関係機関との連携・協働、5 健康および福祉の確保に関する措置、以上5つの切り口で進めたいと考える。取り組みを実行していくために、まず市として、教職員の在校等時間について、毎年ウェブサイトへの公表並びに、定例の教育委員会、総合教育会議において報告する。本プランは、教職員1人1人が子どもたちと向き合う時間を大切に、学校本来の役割である教育活動の充実に繋げていく事を目的としている。学校現場と連携し、実効性のある取り組みを着実に進めていきたいと考える。本プランを通じて、職員が安心して働き続けられる学校づくりを進め、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考える。

**(企画政策課長)** 事務局の説明に対し質問をお願いします。

**(穴水委員)** 少し話題が逸れますが、先生方が心身に余裕をもってという文言があったと思うが、先生方の働く職場のハードウェアがだいぶ古い学校が増えているので、教育予算を余分につけていただき、せめて暖房便座ウォシュレット等を備えたトイレを先生が使える環境をどの学校でもそろえてほしい。

**(企画政策課長)** 他にはいかがが。

**(西川委員)** プランの進行管理のところで、在校等時間の目標の達成状況について、年度末に行うアンケート結果から把握するということだが、4年間で目標値を達成するためには、もう少し細やかに状況を確認する必要があるのではないかと思う。

**(教育長)** 穴水委員、西川委員から建設的な意見をいただいたので、参考にしていき  
たいと思う。

**(企画政策課長)** その他はよろしいか。以上で報告事項業務量管理・健康確保措置実  
施計画についてを終わる。本日を通して、市長、教育委員の皆様から何かあるか。

**(市長)** 業務改革プランのICTのところについてだが、今後いいシステムが導入さ  
れていく。特に注目しているのは、先生方は教材の準備に相当時間を使っているが、  
今度の学習支援システムでは、1人の先生が作った教材データを他の先生と共有でき  
るというシステムがついている。他の先生の教材を少し借りて使用する等の組み  
組みを行い、今ある仕組みを有効に使う事がこれからの肝になると思う。また、自動採点  
ソフトもこれから導入していくことから、使えるものはどんどん使ってください、ど  
れだけ使えるか、先ほど杉山委員が言われた研修についても大事になってくると思う。  
民間企業の方が長けている部分が多いことから、教育委員の皆様等から提案をいた  
だきたい。

**(企画政策課長)** 以上で予定した議事は終了となる。第3次湖西市教育振興基本計画  
(案)については、本日のいただいた皆様の意見と、1月23日(金)から実施するパブ  
リックコメントなどを踏まえて、今年度中に策定する予定である。以上で、令和7年  
度湖西市総合教育会議を閉会する。

閉 会            午後4時20分終了